



セチュラの風だより



2020年5月第14号

日本へ 各国隊員一時帰国！

西島 将 (Nishijima Tadashi)



コロナウイルス感染拡大に伴い、JICA ボランティア 71 か国 1785 名が無事日本へ一時帰国しました。

ペルー隊員は、緊急事態宣言で国境が封鎖されたため、隊員の中で最後の帰国となりました。帰国に向けて調整頂いた日本大使館、JICA 関係者、ペルー政府の協力が無ければ帰国は叶わなかったでしょう、本当にありがとうございました。今後、海外で緊張感を持ちながらの待機生活はきっと経験する事はないでしょう。



JICA からの帰国日の連絡を受け、自宅の整理やお世話になった同僚への別れの挨拶をしました。特に、ペルーの家族との別れはとても辛かったです。

4月3日にセチュラから州都のピウラへ退避。7日にピウラから首都リマまでバスで20時間かけて移動。10日にメキシコ経由のチャーター機で軍用空港から飛び立ちました。15日に日本に着いた時は、緊張感からの解放と安堵から涙が溢れました。成田空港には、僕たち以外の入国者はいませんでした。しかし、検疫には時間を要しました。

ペルーでは、すでに日本の感染者数を超え1日平均500人を超える感染者が出ています。

また、緊急事態宣言も延長されています。ペルー国内では、外出制限が原因で、障害のある子供や家庭内暴力の問題が発生し、特別なケアが必要です。また、規則を破り1日あたり約3000名の逮捕者も出ています。

隣国の、エクアドルではコロナウイルスが原因で亡くなった遺体を、黒いビニールシートをつけ遺棄する問題が多発しています。



今後の活動について

日本に帰国後、自宅で2週間の待機が義務化されています。今後は、コロナウイルスの状況が改善され、JICAからのボランティア事業再開の連絡まで、日本で待機する予定です。

日本で待機中も、セチュラ郡役所に授業の教材や計画の報告をしていきたいです。スペイン語に関しても、オンライン講座を利用し継続し学習します。

セチュラの風だよりも、来月以降はペルーの文化やボランティア制度について一時日本から報告していきます。

